

(別紙)

成果の説明書

(氏名) 名和賢美	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p>2012 年度に最も力を注いだのは、昨年度に引き続き、「市民教育という観点からの、論理的表現力・批判的思考力育成プログラム構築に向けた調査研究」であり、関連する事業の概要および教育研究の成果は、以下の通りである。</p> <p>(1) 第 6 回「読み方指導講座」の開催 (5 月 2 日)</p> <p>主に新入生希望者に対して、少人数制で文章読解法を指導する講座で、本学着力以降毎年 1 回自ら企画運営している。今回も経済学会「学生向け学習・研究支援プログラム助成制度」から補助金交付を受け、学外から講師 3 名を招聘し、実施。当日は 41 名 (そのうち 1 年生が 32 名) が受講し、論旨把握法、論点発見法等の細やかな指導を受け、本学の一部学生が批判的思考力を高める一助となった。</p> <p>(2) 経済学部カリキュラム等検討委員会の導入教育原案作成チーム・リーダー (5 月 9 日～年度末)</p> <p>少人数制で批判的思考・論理的表現の汎用力育成を目指す科目の必要性を訴え、「日本語リテラシー」という科目の新設 (2014 年度より 1 年生必修科目として、前期 40 クラス、後期 20 クラスを開講) となる。また、この科目の新設に伴い、現行の教養教育科目全体のカリキュラム再編 (第 2 外国語教育・数学教育・英語教育等の再構築) にも尽力した。なお、今回の導入教育原案作成過程やこれまでの担当授業における導入教育充実に向けた取り組みについては、以下の発表の機会もあった。</p> <p>名和賢美「鉄を熱いうちに打とうと努めた 6 年間：実りある初年次教育の模索」、一橋大学アカデミック・キャリア講習会 2012 年度第 6 回 (2013 年 1 月 31 日、於一橋大学)。</p> <p>(3) 高崎経済大学附属高等学校での第 2 回「経大生による作文指導講座」開催 (8 月 20、22、24、28 日)</p> <p>自らが担当する「社会学 I」・「社会思想史 I・II」を履修し、高い論理的表現力を身につけた大学生が、今度はその能力を附属高 1 年生希望者に伝授するという企画であり、高大連携事業の一環として、昨年度に引き続き実施した。25 名が 4 日間の受講を全うし、附属高の一部生徒が文章の論理性を大幅に高める一助となった。その詳細については、以下の論文にまとめた。</p> <p>名和賢美「大学生による論理的表現力の伝授：型作文から始まる市民教育の模索」高崎経済大学産業研究所編『高大連携と能力形成』日本評論社、2013 年、253-298 頁。</p>	

- (4) 高崎商業高等学校2年生への論理的な文章の書き方指導（9月24、27、28日）
依頼を受けての出前授業。2学年3組～8組240名に対して、クラス毎に50分の授業を3日間で計6回実施。1回の講義で論理的表現力にどれほど成長が見られたか等に関しては、現在データを整理・分析中。
- (5) 高崎経済大学附属高等学校2年生への進路・作文指導（2月2日）
附属高との高大連携事業の一環として、2学年全員に対して、論理的表現力指導と同時に進路指導を行うという授業を実施。当日は2学年を3つに分け、60分の講義を3回行う。昨年度「経大生による作文指導講座」受講生の1年後の状況や、初受講者が1回の講義で論理的表現力にどれほど成長が見られたか等に関しては、現在データを整理・分析中。

2013年度の計画

前年度と同一テーマが、最重要課題となる。学部新設科目「日本語リテラシー」については、引き続きカリキュラム等検討委員会委員として、2014年度開講に向けた準備を継続進行。附属高との高大連携事業では、第3回「経大生による作文指導講座」の開催に加え、1年生全員に対する論理的な文章の書き方指導の講義を実施予定。現在データ分析中である高校生への1回授業の効果については、分析・検討をさらに進め、論文にまとめ上げる予定。

2 その他の事項

- (1) 政治思想学会誌『政治思想研究』第13号公募論文1編の査読（9月中下旬）
(2) 経済学部佐々木茂ゼミ3年生2グループに対して「関東学生マーケティング大会」提出論文への論文構成に関わる助言（11月上旬）